

製品名: HNK-1ST ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12134**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CHST10
別名	CHST10; Carbohydrate sulfotransferase 10; HNK-1 sulfotransferase; HNK-1ST; HNK1ST; HuHNK-1ST
遺伝子 ID	9486.0
SwissProt ID	O43529
免疫原	抗血清はヒト CHST10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

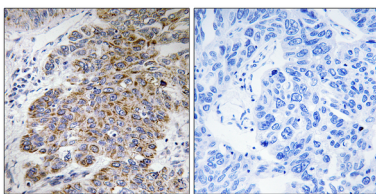
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質および脂質に結合したオリゴ糖の末端グルクロン酸の C-3 ヒドロキシル

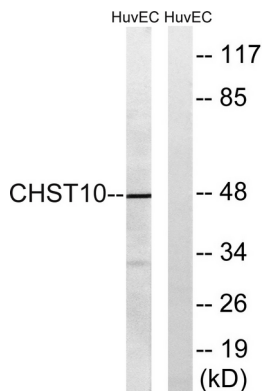
基に硫酸基を転移します。このタンパク質は、ヒトナチュラルキラー 1 (HNK-1) グリカンに作用する硫酸基転移酵素として初めて同定されました。HNK-1 は、神経発達とシナプス可塑性に関与する糖鎖です。[RefSeq 提供、2011 年 2 月] 機能: タンパク質および脂質に結合したオリゴ糖の末端グルクロン酸の 3 位への硫酸基転移を触媒します。多くの神経認識分子が担う硫酸化グルクロン酸-ラクトサミニル残基である HNK-1 糖鎖構造の生合成に関与し、個体発生における細胞相互作用や成体におけるシナプス可塑性に関与しています。HNK-1 生合成における役割を介して、海馬のシナプス可塑性に間接的に関与している可能性がある。類似性: 硫酸基転移酵素 2 ファミリーに属する。組織特異性: 胎児組織では、主に脳で発現し、肺、腎臓、肝臓では弱い発現を示す。成人では、脳、精巣、卵巣で高発現し、心臓、膵臓、骨格筋、脾臓、胸腺では中程度の発現を示し、その他の組織では弱い発現を示す。脳では、前頭葉で高発現を示す。

研究分野

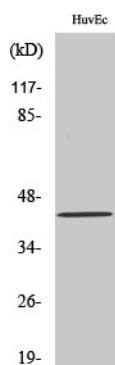
画像データ



CHST10 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CHST10 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



HNK-1ST ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析